

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

第19回ふかや花フェスタ 中止のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大防止などを考慮し、4月に予定していた『第19回ふかや花フェスタ』は中止します。ご来場を楽しみにされていた皆さまには申し訳ありませんが、ご理解をお願いします。
 なお、『第19回ふかや花フェスタ』に替えて『ふかやフラワーウィーク2022』を開催します。ご来場の際は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を十分に行ったうえでお越しください。

ふかやフラワーウィーク

Fukaya Flower Week 2022

2022.4/18-24日

会場 深谷市役所本庁舎
深谷グリーンパーク

『ふかやフラワーウィーク』では、各会場を深谷の花でいっぱいに装飾します!
 『ふかや緑の王国』ではガーデニング教室の開催、ガーデニングコンテスト作品の展示、アダプト団体によるモデルガーデンの設置、『深谷グリーンパーク』ではガーデニング教室の開催、『深谷市役所本庁舎』では深谷の特産品であるユリを中心にした装飾をします。

4/23日・24日
ふかやオープンガーデン開催

今年は40軒のお庭がオープン予定



ガーデニング教室参加者募集!

春のハンギングバスケット教室

春から夏にかけて楽しめるペチュニアやオステオスペルマムなどの花を使って、壁掛けタイプのハンギング

とき 4月6日(水)午前10時~正午

ところ ふかや緑の王国

定員 先着12人

参加料 3,000円(材料費を含む)

講師 柳清子氏(ハンギングバスケットマスター)

申し込み 3月16日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ
(1回の申し込みで2人まで)



※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、中止になる場合があります。また、体験および教室では各自でマスクを準備し感染予防対策をしてください。

『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、ツイッター(@garden5551)、『ふかや緑の王国』フェイスブックもご覧ください。



ふっかちゃん子ども福祉事業

『ふっかちゃん子ども福祉基金』を活用して下記の助成事業を実施しています。詳しくはお問い合わせください。

	軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成	障害児療育経費助成	障害児スポーツ助成
助成内容	補聴器を購入する費用の一部	障害児が医師の指示のもと実施される専門性の高い療育事業に参加した場合、その経費の一部	障害児が行う障害者スポーツに必要な補装具・用具・消耗品の購入費用など
助成対象	次の要件すべてを満たす18歳年度末(18歳に達する日以降の3月31日)までの難聴児①深谷市に住所を有する②両耳の聴力レベルが25デシベル以上で、身体障害者手帳の交付対象とならない③装用により言語の習得など一定の効果が期待できると医師が判断	次の要件すべてを満たす18歳未満の障害児または障害児の保護者①障害児または障害児の保護者のいずれかが深谷市に住所を有する②対象の療育事業(音楽療法、ソーシャルスキル、ヴィジョントレーニングなど)に参加した	次の要件すべてを満たす18歳年度末(18歳に達する日以降の3月31日)までの障害児①深谷市に住所を有するまたは在勤、在学している②障害者スポーツに必要な補装具の購入・修理または用具・消耗品の購入 ※交付後に18歳になった後も継続して障害者スポーツを行っている場合、満20歳となった年度まで対象
助成金額	購入する補聴器の種類によって異なります。	参加費用の2分の1(100円未満切捨て)※月額上限5,000円	<ul style="list-style-type: none"> 補装具などの購入または修理費の10分の9(年間上限50万円) 用具または消耗品費の10分の9(年間上限1万円)
備考	購入する前に申請が必要です。	障害者手帳を所持していないかたも医師の意見書により助成を受けられる場合があります。	対象スポーツであれば部活などで使用する場合も対象(授業で使用する場合は対象外)。障害者手帳を所持していないかたも医師の意見書などにより助成を受けられる場合があります。

☎障害福祉課 (☎571-1011)

畠山重忠を知る



武蔵武士の鑑

畠山重忠

重忠の側近 榛沢成清と本田近常
 重忠が登場する多くの場面では、そばに榛沢成清と本田近常がいます。2人は重忠に最も信頼された側近で、木曾義仲や平家追討の合戦、奥州合戦などに従軍し活躍しました。
 榛沢成清は榛沢地区を本拠とし、重忠の乳母の子でした。乳母・乳母子と養母は、実の母や兄弟よりも親密で、乳母子は養君と生死を共にするものと決まっております。重忠があるところ常に成清あり」といわれました。
 重忠が源頼朝のもとに参陣する際、一度敵対してしまつたこと、悩む重忠に対し、『平家は当時一日の恩、左殿(頼朝のこと)は相伝四代の君なり』と、源氏の

恩は代々のもので重みが違つと進言したことや、三浦氏との戦い『小坪合戦』では重忠が乗馬を失つたのを見て自らの乗馬を譲り、徒武者となつて戦つたことなどが『源平盛衰記』に記され、成清が有能な側近だつたことがうかがえます。
 本田氏は畠山に近い本田地区を本拠地とし、畠山氏とは強い関係性を築いていたと思われれます。本田近常は、源平合戦の一つ、一の谷の戦いで平師盛(平清盛長男の子)を討ち取るなど、武勇にも優れていました。
 重忠の最期となる「保川の戦い」の時、成清と近常は一度帰つて陣を立て直すよう勧めましたが、名譽のために死のうとする重忠の覚悟を知り、生死を共にしました。深谷市後榛沢の成清館跡と伝わる場所には成清を祀る神社があり、供養塔が立っています。また、深谷市本田には本田氏の館跡が伝わります。戦国時代には本田氏の末裔が深谷上杉氏に仕え、その頃の土壘や堀が一部残ります。本田氏の一部は、重忠の姻戚だつた島津氏に仕え、南九州に移りました。